

GA330

言語文化演習－映画で学ぶ国際情勢と人間の内的世界－

佐藤 千登勢

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、さまざまな国の映画作品を通して、象徴性・メタファー・寓意的表象で語られる映画言語を読み解き、背後にある、それぞれの国・地域の土着的文化、慣習、歴史的経緯、イデオロギー、社会体制の差異を確認する作業も含めて、映画鑑賞と作品分析を楽しみます。そのための基礎概念として、『ファシズム・全体主義』『亡命・離散』、『差別』、『抑圧』、『エスニシティ』といった社会的テーマから『エディプス・コンプレックス』、『分身』、『母胎回帰』、『潜在意識』、『欲望』など個人の内的世界に関わるモチーフをキーワードに、映画作品の多面性・両義性・重層性、そして映画作品に反映する国や地域の文化や社会を見ていきます。扱う映画作品は、ロシア（ソ連）、アメリカ、イギリス、デンマーク、フランス、イタリア、ドイツ、ポーランド、チェコのもの、及び、監督がこれらの国の出身である作品が中心となるでしょう。

なお、「映画テキスト解説」のみならず、ロシア（および旧ソ連）・中東欧の文化や社会研究の分野も、当演習でとりくむ用意があります。

【到達目標】

映画作品は、世界の縮図モデルであり、多様な国々の社会、経済、文化、民族的傾向を反映したモデルとも言えます。ですから、映画作品の分析により、学生みなさんは、洞察力、ものごとの本質を見抜く力を身につけ、さらにこれを言語化してプレゼンテーションする能力を身につけることが、この演習の目標となります。また、毎回の映画鑑賞を経ての議論内容、および自身の意見をA4用紙1枚程度でまとめ、文章表現の鍛錬、自身の見解を論理的に記述する練習を重ねることで、レポート作成能力の向上を目指します。

【授業の進め方と方法】

初回から第5回までは、教員が選択する映画作品を鑑賞し、教員による概説と問題提起に基づき、みなさんに自由に討論してもらいます。さらに、討論を通して、自身の見解を次週までに短いレポートとしてまとめてもらいます。第6回から以後は、学生みなさん一人ひとりに映画作品の選択から分析、見解をまとめたプレゼンテーションをしてもらい、質疑応答をみなさんで行います。また、毎回の映画鑑賞と議論の後には、これらを整理し、記憶に留めるためにも、またレポート作成能力の向上のためにも、A41枚程度の鑑賞記録文を提出してもらいます。

なお、映画作品を扱った発表ではなく、ロシア・中東欧の文化や社会に関する発表を希望する学生は、予め相談してください。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、春学期の計画を明確にする。いくつかの映画作品をとりあげ、手法や技巧について概説。
2	原発事故と個人	『故郷よ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
3	エスニシティと暴力	『神々と男たち』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
4	見果てぬ夢のゆくえ	『マルホランド・ドライブ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。

5	自己犠牲と共依存	『奇跡の海』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。
6	学生による報告1	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
7	学生による報告2	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
8	学生による報告3	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
9	学生による報告4	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
10	学生による報告5	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
11	学生による報告6	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
12	学生による報告7	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
13	学生による報告8	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
14	学生による報告9	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。
15	学生による報告10	学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	演習の方向性を示すとともに、学生みなさんの意見をきき、秋学期の計画を明確にする。
2	全体主義・パロディ・寓意	『ゼロ・シティ』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。

管理 ID：
1705244
授業コード：
C1120

- | | | |
|----|-------------------------|---|
| 3 | 社会主義体制下の不自由な社会と個人、リアリズム | 『4ヶ月、3週と2日』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。 |
| 4 | 抑圧と抵抗 | 『地下水道』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。 |
| 5 | 社会批判とメロドラマの混淆の妙味 | 『1年の9日』鑑賞の上、教員による概説、学生による議論、レポートのまとめ。 |
| 6 | 学生による報告1 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 7 | 学生による報告2 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 8 | 学生による報告3 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 9 | 学生による報告4 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをしてもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 10 | 学生による報告5 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 11 | 学生による報告6 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 12 | 学生による報告7 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 13 | 学生による報告8 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 14 | 学生による報告9 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |
| 15 | 学生による報告10 | 学生各人に、これまで演習で扱ってきたテーマをもとに映画作品を選択のうえ、プレゼンテーションをもらう。もしくは、ロシア・東欧関連のテーマを扱った研究発表をおこなってもらう。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予め読んでくるべきテキスト（参考文献の一部コピーなど）を配付することがあります。その場合には、必ずテキストを精読し、演習での議論に活発に参加できるようにしてきてください。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用しません。適宜、教員がテーマと関連する文献のコピー、および教員が作成したレジュメを配付します。

【参考書】

適宜、文献や参考となる映像ソフトを紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、リアクションペーパー（25%）、報告内容（25%）に基づき、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論を中心とした演習を望む声もあれば、教員からの概説を中心とした演習を望む意見もありました。以後は、両者の配分のバランスに配慮しながら演習を進め、学生のみなさんに知識を得る楽しさや充実感を味わってもらうと同時に、自らの意見をまとめて見解を述べ、議論する技術を身につけてもらうよう尽力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし